

AXIS Occupancy Estimator

ユーザーマニュアル

AXIS Occupancy Estimator

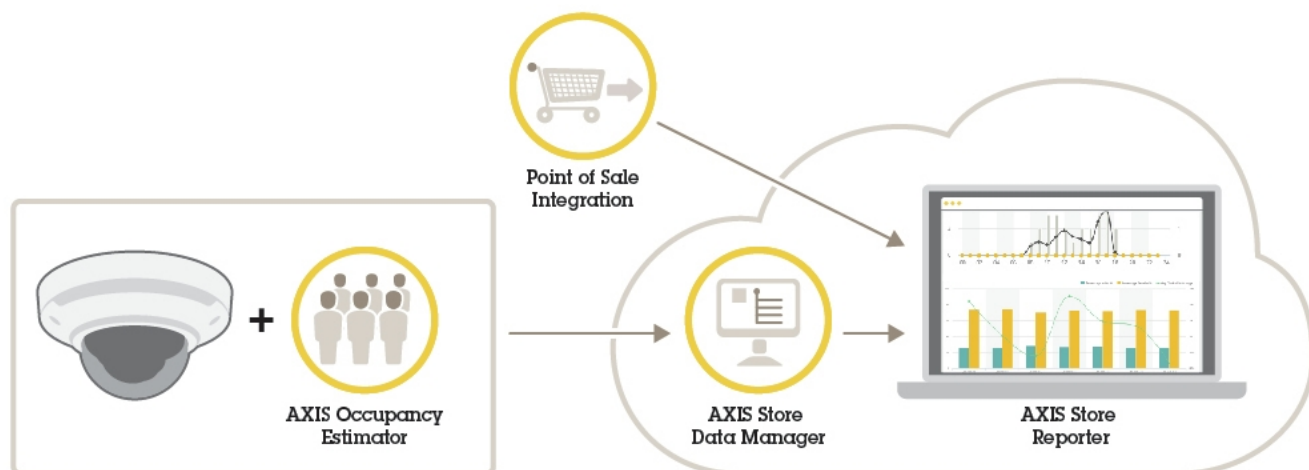
目次

ソリューションの概要	3
AXIS Occupancy Estimator	3
カメラを取り付ける	4
ネットワーク上のデバイスを検索する	7
デバイスへのアクセス	7
安全なパスワード	7
カメラにアプリケーションをインストールする	8
追加設定	10
日付と時刻を設定する	10
ユーザーアカウントの作成	10
カウンターを設定する	10
人数計測エリアを調整する	11
複数のカメラの設定について	11
全日分析について	14
スマートおよび純粋な混雑状況の各モードについて	14
利用レベルが制限を超えた場合に電子メールを送信する	16
スケジュールを設定する	16
人物の匿名化	16
アプリケーションの設定を別のカメラにコピーする	17
システムを検証する	18
カウンターを検証する	18
カウンターを微調整する	18
統合	19
収容制限を超えた場合に通知を送信する	19
統計情報	21
AXIS Store Data Managerでカメラをフォルダーに接続する	21
統計情報のダウンロード	21
トラブルシューティング	23
アプリケーションの再起動	23
アプリケーションをリセットする	23
設定をバックアップする	24
設定をリストアする	24
ログレポートの生成	24
ライセンスを管理する	24
軽量版のWebインターフェース	25
人数計測アプリAPI	26
Occupancy Estimator API	26
人数計測アプリAPI	27

AXIS Occupancy Estimator

ソリューションの概要

ソリューションの概要



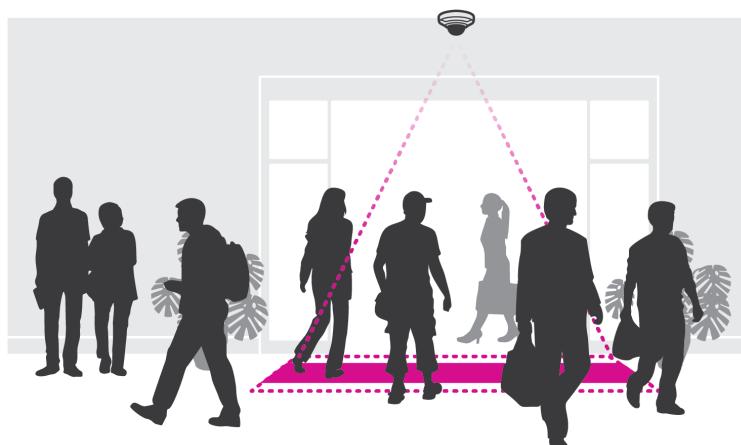
完全なシステムに必要なさまざまなデバイス、アプリケーション、およびツールの概要。

AXIS Occupancy Estimator

AXIS Occupancy Estimatorは、ネットワークカメラにインストールできる分析アプリケーションです。このアプリケーションは、現在、閉じたエリアを占めている人の数を追跡します。

また、平均的な人がエリア内で費やす時間を推定することもできます。

AXIS Occupancy Estimatorには、AXIS People Counter機能が含まれます。



仕組み

このアプリケーションは、入口が1つだけの単一の小売店と、複数の出入口がある店舗の両方で機能します。建物の各出入口に、AXIS Occupancy Estimatorがインストールされたネットワークカメラが装備されている必要があります。複数のカメラがある場合は、各カメラはプライマリおよびセカンダリの構成でネットワーク経由で互いに通信します。プライマリカメラは、継続的にセカンダリカメラからデータを取得し、ライブビューにデータを表示します。15分ごとに、プライマリカメラが統計データをAXIS Store Data Managerに送信します。その結果、AXIS Store Data Managerから生成されるレポートで、最低15分の時間間隔でデータを示すことができます。

AXIS Occupancy Estimator

カメラを取り付ける

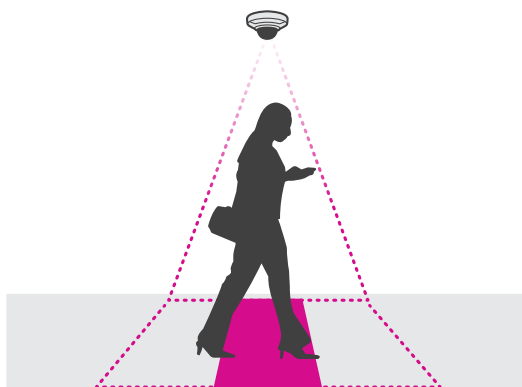
カメラを取り付ける

注記

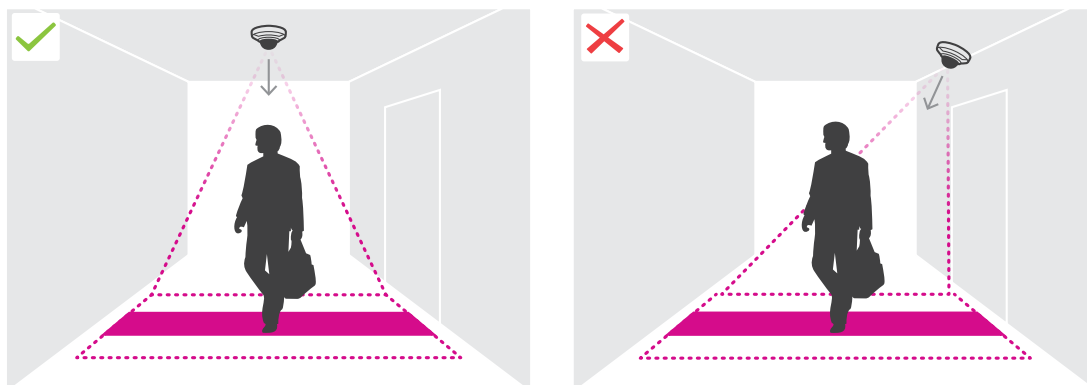
このアプリケーションは、成人の歩行者の特徴を持つ物体をカウントする小売店のシナリオ向けに設計されています。物体の正確な高さ制限は、カメラのモデル、カメラのレンズ、選択したカウンター
の感度によって異なります。

カメラのインストールガイドの手順に加えて、アプリケーションを予測したように動作させるために従う必要がある重要な手順があります。

- 最低の高さの270 cmに、カメラを設置することをお勧めします。
- 経験則では、カメラはカメラの設置高さと同じ広さの範囲をカバーします。特定のカメラモデルの詳細については、www.axis.comで入手できる **[Camera selector for retail analytics] (小売店舗分析用のカメラセクター)** を参照してください。
- 設置後、カメラのズーム設定に応じてカバーするエリアを広げることができます。
- カメラが十分な高さに取り付けられている場合は、8 mの幅をカバーできます。複数のカウンターを使用して、さらに広い入り口をカバーできます。
- カメラは、人が通過する箇所の真上に取り付ける必要があります。



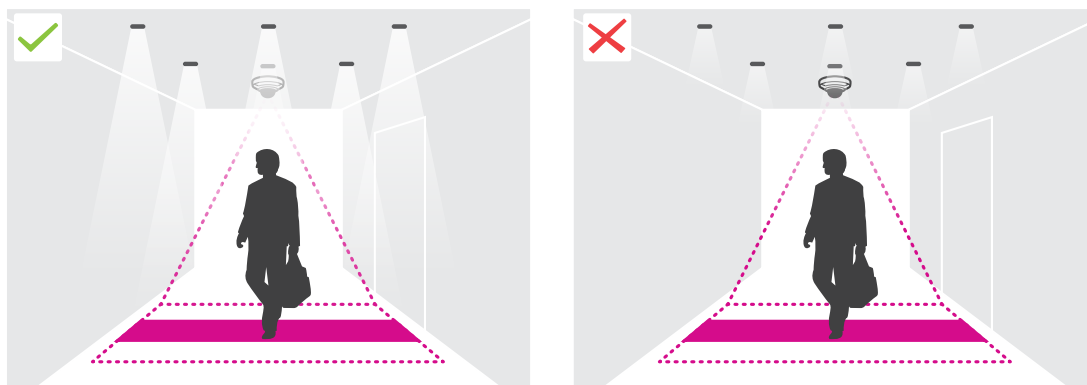
- カメラが天井に沿って真下を向いていることを確認します。



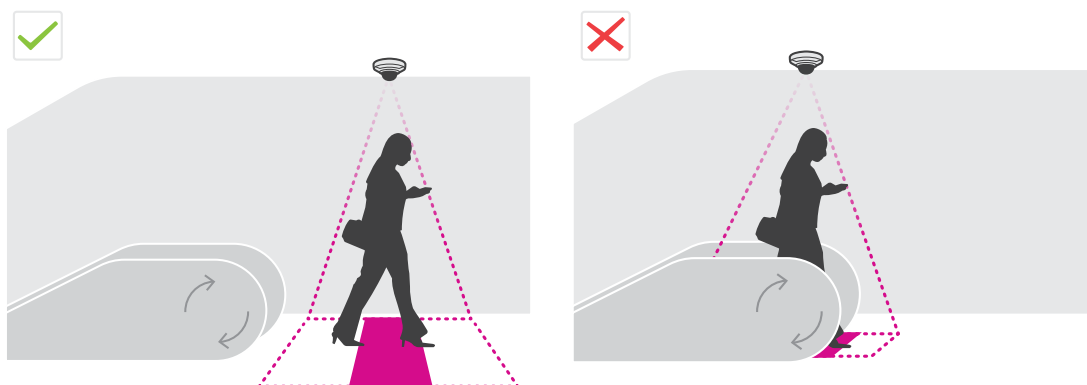
AXIS Occupancy Estimator

カメラを取り付ける

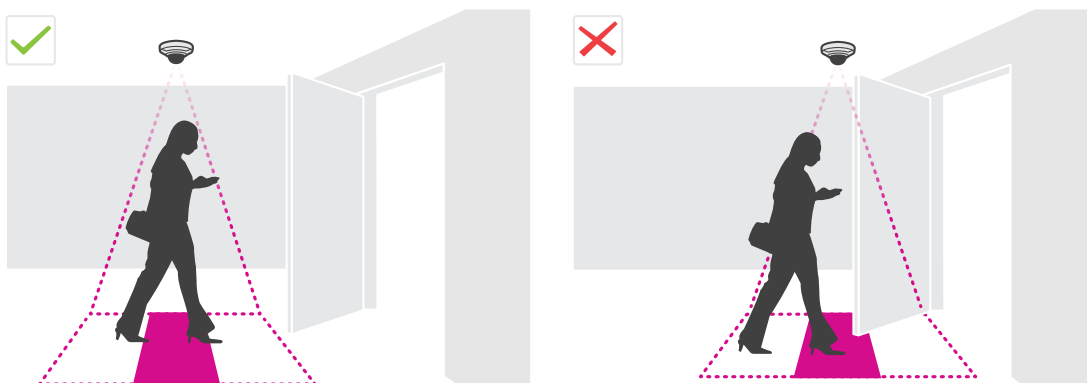
- カメラを取り付ける前にアプリケーションをインストールした場合は、ライブビューに示される人数計測エリアを使用して、カメラの位置を決めることができます。人数計測エリアは、左から右に向かい、人が通過する経路と垂直である必要があります。
- 現場に十分な白色光や赤外線照明があることを確認します。



- 人数計測エリア内に継続的に移動する物体がないことを確認します。たとえば、エスカレーターの上にカメラを設置しないでください。



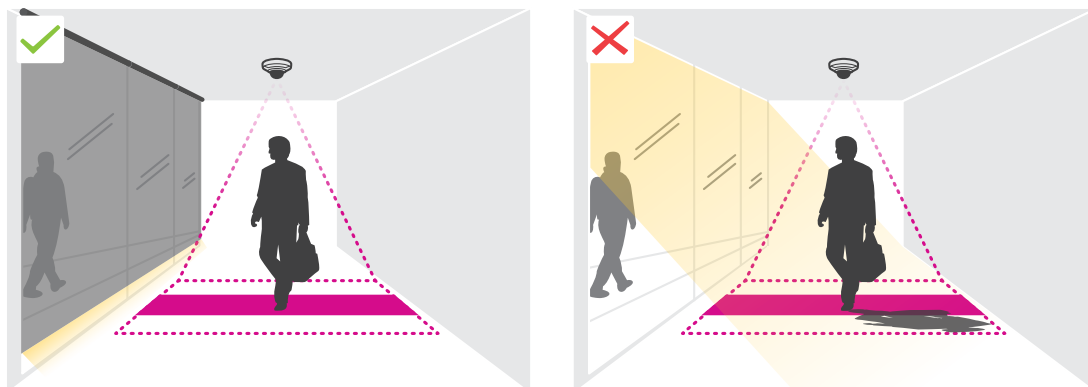
- 人数計測エリア内に干渉する移動物体がないことを確認します。たとえば、ドアに近すぎる場所にカメラを設置しないでください。



AXIS Occupancy Estimator

カメラを取り付ける

- カメラビュー内に、日光などの非常に強い光やくっきりした影が入らないようにしてください。



AXIS Occupancy Estimator

ネットワーク上のデバイスを検索する

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®でAxisデバイスを探してIPアドレスの割り当てを行う方法については、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用してください。いずれのアプリケーションも無料で、axis.com/supportからダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、[IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法を参照してください](#)。

デバイスへのアクセス

1. ブラウザーを開き、AxisデバイスのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用して、ネットワーク上でデバイスを見つけます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。初めてデバイスにアクセスする場合は、rootパスワードを設定する必要があります。 [7ページ](#)のrootアカウントの新しいパスワードを設定するを参照してください。
3. ブラウザーでライブビューページが開きます。

安全なパスワード

重要

Axisデバイスは、最初に設定されたパスワードをネットワーク上で平文で送信します。最初のログイン後にデバイスを保護するために、安全で暗号化されたHTTPS接続を設定してからパスワードを変更してください。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用される可能性があることから、パスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことを強く推奨します：

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

rootアカウントの新しいパスワードを設定する

重要

デフォルトの管理者ユーザー名はrootです。rootのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットしてください。 [を参照してください](#)

AXIS Occupancy Estimator

ネットワーク上のデバイスを検索する



このビデオを見るには、このドキュメントのWebバージョンにアクセスしてください。

www.axis.com/products/online-manual/37915#t10098905_ja

サポートのヒント: パスワードセキュリティ確認チェック

1. パスワードを入力します。安全なパスワードを設定する手順に従います。7ページの安全なパスワードを参照してください。
2. パスワードを再入力して、スペルを確認します。
3. [Create login (ログインの作成)] をクリックします。これでパスワードが設定されました。

カメラにアプリケーションをインストールする

注意

- ライセンスは1台のカメラにのみ有効です。新しい登録キーなしで、別のカメラでそのライセンスをアクティブ化することはできません。
- カメラにアプリケーションをインストールするには、管理者権限が必要です。

1. ネットワークにカメラをインストールします。
2. ブラウザーでカメラのWebページに移動し、カメラのユーザーマニュアルを参照してください。
3. 7.10以降のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Settings > Apps (設定 > アプリ)] に移動します。

6.50以前のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Setup > Applications (設定 > アプリケーション)] に移動します。

4. アプリケーションファイル (.eap) をカメラにアップロードします。
5. ライセンスをアクティブ化します。オンラインになっている場合は、ライセンスコードを入力します。アプリケーションが自動的にライセンスをアクティブ化します。

オフラインのときにライセンスをアクティブ化する方法

オフライン時にライセンスをアクティブ化するには、ライセンスキーが必要です。ライセンスキーがコンピューターに保存されていない場合は、以下の手順に従います。

1. www.axis.com/applicationsに移動します。
2. [License key registration (ライセンスキー登録)] に移動します。ライセンスコードとAxisデバイスのシリアル番号が必要です。
3. ライセンスキーファイルをコンピューターに保存し、アプリケーションに求められたときにそのファイルを選択します。

AXIS Occupancy Estimator

ネットワーク上のデバイスを検索する

アプリケーションの設定にアクセスする

1. カメラのWebページで、[Apps (アプリ)]に移動し、アプリケーションを起動して、[Open (開く)]をクリックします。

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

追加設定

日付と時刻を設定する

日付と時刻の設定は、長期にわたってカメラで正しい時間を維持し、正しい時間に統計情報を取得するために重要です。

1. 日付と時刻を設定するには、カメラのWebページに移動する必要があります。
 - 7.10以降のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Settings > System > Date and time (設定 > システム > 日付と時刻)] に移動します。
 - 6.50以前のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Setup > System Options > Date & Time (設定 > システムオプション > 日付と時刻)] に移動します。
2. ユーザーアカウントに関する詳しい手順については、本製品に内蔵されているヘルプ[?]を参照してください。

ユーザーアカウントの作成

許可されていない人物が統計情報を表示できても、カウンターの設定は変更できないように、さまざまな権限を持つユーザーアカウントを作成できます。

1. ユーザーアカウントを作成するには、カメラのWebページに移動します。
 - 7.10以降のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Settings > System > Users (設定 > システム > ユーザー)] に移動します。
 - 6.50以前のファームウェアを搭載している製品の場合は、[Setup > System Options > Security > Users (設定 > システムオプション > セキュリティ > ユーザー)] に移動します。
2. ユーザーアカウントに関する詳しい手順については、カメラに内蔵されているヘルプを参照してください。[?]

カウンターを設定する

使用するカメラ向けにアプリケーションのキャリブレーションが行われているかどうかを確認するには、**小売店舗分析用のカメラセクターツール**に移動します。

1. アプリケーションのWebページで、[Settings > General (設定 > 一般)] に移動します。
2. [Status (状態)] がオンになっていることを確認します。
3. [Name (名前)] フィールドに、カメラや場所の名前を入力します。
たとえば、「Axis_Main_entrance_T_building」などにします。すべてのカメラには一意の名前が必要です。
4. [Calibration mode (キャリブレーションモード)] を設定します。以下のいずれかの操作を行います。
 - 使用するカメラ向けにアプリケーションのキャリブレーションを行うには、[Height setting (高さの設定)] を選択します。[Visual height (映像の高さ)] フィールドに、設置高さを入力します。
 - アプリケーションのキャリブレーションが行われていない場合は、[Manual setting (手動設定)] を選択し、[Setup (設定)] をクリックします。カメラの下に人を配置し、1人だけが覆われるように黄色のボックスのサイズを調整します。
5. ズームインが必要な場合は、次のいずれかの操作を行います。

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

- [Digital zoom (デジタルズーム)] をオンにし、[Setup (設定)] をクリックします。
 - カメラに光学ズームがある場合は、カメラのWebページに移動してズームを調整する必要があります。
6. ライブビューで通過する人物の方向に応じて、[Direction in (方向)] を [Up (上)] または [Down (下)] に設定します。
 7. 人数計測エリアを調整するには、11ページの人数計測エリアを調整するを参照してください。

人数計測エリアを調整する

注意

カメラのモデルと設置高さにより、人数計測エリアを調整できる範囲が制限されます。

ライブビュー画像では、人数計測エリアは2本の青線と赤色のエリアで示されます。人数が計測される赤色のエリアを人が通過する必要があります。

曲率の設定を使用して、人数計測エリアを人が普通に通過するように形状を変更します。曲率はできるだけ平角に近くなるように保ちます。

1. [Settings > Counting area] (設定 > 人数計測エリア) に移動します。
2. 人数計測エリア全体を上または下に移動するには、[Line offset] (ラインオフセット) スライダーを使用します。移動できる範囲は人数計測エリアのサイズによって異なります。
3. 人数計測エリアの高さを調整するには、[Counting area height] (人数計測エリアの高さ) スライダーを使用します。
4. 人数計測エリアの幅を調整するには、[Counting area width (人数計測エリアの幅)] スライダーを使用します。変更できる範囲はカメラの設置高さによって異なります。
5. 湾曲した人数計測エリアを使用するには、[Curved line] (曲線) をオンにし、[Radius] (半径) スライダーを使用して半径を調整します。
6. 曲率の方向を変更するには、[Radius] (半径) アイコンをクリックします。
7. 終了したら、[Submit] (送信) ボタンを押します。そうしないと、設定は保存されません。
8. 最高のパフォーマンスを得るために、カウンターを微調整する必要があります。18ページの、システムを検証するを参照してください。

複数のカメラの設定について

注記

この機能は、同じモデルのカメラでのみ使用できます。

複数のカウンターを使用して広い入り口をカバーする必要がある場合は、複数のカメラを設定することができます。[Neighbour counters (近くのカウンター)] と呼ばれます。入り口の幅全体をカバーするのに必要なカメラの数を計算するには、axis.com/toolsで入手できる [Camera selector for retail analytics (小売店舗分析用のカメラセクター)] ツールを使用します。

注意

プライマリカメラとセカンダリカメラを使用するこの設定は、[Settings > AXIS Occupancy Estimator (設定 > AXIS Occupancy Estimator)] で設定されるプライマリおよびセカンダリのロールと同じではありません。複数のカメラを使用して、広い入り口や出口をカバーします。ただし、混雑状況アルゴリズムが機能するためには、プライマリおよびセカンダリのロールが必要です。

プライマリカメラは、セカンダリカメラの以下の設定をオーバーライドします。

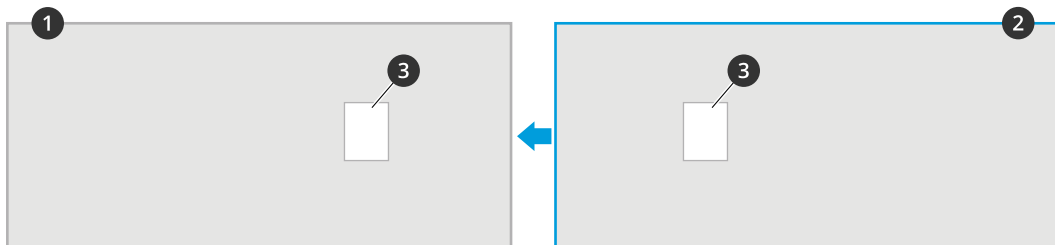
AXIS Occupancy Estimator

追加設定

- 映像の高さ
- カウンターの感度
- デジタルズーム
- ネットワークおよび時間
- ラインオフセット
- 計測ゾーンの高さ
- 計測スケジュール

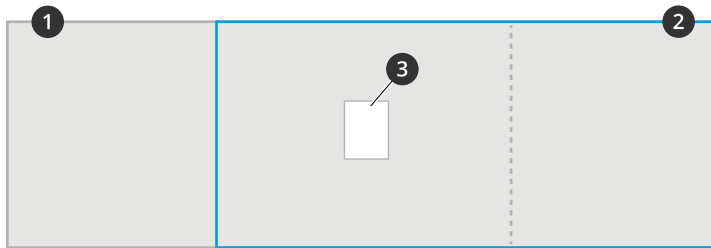
複数のカメラを設定する

1. カメラセレクトーツールによって示された測定値に従って、カメラを並べて取り付けます。
2. プライマリカメラのアプリケーションのWebページに移動し、[Settings > Advanced > Neighbour counters (設定 > 高度な設定 > 近くのカウンター)] を選択します。
3. [Enable as primary (プライマリとして有効にする)] を選択します。
4. セカンダリカメラごとに、[Settings > Advanced > Neighbour counters > Display camera credential (設定 > 高度な設定 > 近くのカウンター > カメラの認証情報を表示)] に移動し、次の認証情報をコピーする必要があります。
 - IPアドレス: カメラのURL
 - ユーザー名: 自動的に [AxisAnalytics (AxisAnalytics)] に設定されます
 - パスワード: 自動的に生成されます
5. プライマリカメラのWebページに戻り、[Neighbour counters (近くのカウンター)] の下のフォームに認証情報を貼り付けます。
6. カメラがAXIS Store Data Managerにデータを送信するように設定されている場合は、プライマリカメラだけが接続されていることを確認します。プライマリカメラは、1つのユニットとしてすべてのセカンダリカメラからデータを自動的にアップロードします。
7. すべてのカメラを接続したら、[Calibrate secondary position (セカンダリ位置のキャリブレーション)] に移動します。
8. 2台のカメラの中間点に、紙などの物体を配置します。物体はカメラのキャリブレーションの基準点として使用されるため、物体を正確に2台のカメラの中央に配置することが非常に重要です。
9. セカンダリカメラのビューを、プライマリカメラのビューの上にドラッグします。垂直オフセットを避けるようにします。



AXIS Occupancy Estimator

追加設定



- 1 プライマリカメラビュー
- 2 セカンダリカメラビュー
- 3 参照物体

10. キャリブレーションが完了したら、プライマリカメラの **[Live view (ライブビュー)]** に移動し、すべてのセカンダリカメラを表示します。

セカンダリカメラからのビデオストリームがプライマリカメラに表示されない場合は、動作中のセカンダリカメラへの他の接続がないことを確認してください。

プライマリカメラの設定方法

いずれかのカメラがプライマリである必要があります。プライマリカメラはエリア全体を示し、エリア全体の混雑状況と平均滞在時間を推定します。

1. **[混雑状況名]** を入力します。これは、AXIS Store Data Managerに表示される名前です。
2. セカンダリカメラのローカルIPアドレスを入力します。
 - セカンダリカメラが2つの異なる混雑状況エリアを結びつけている場合は、**[Reverse In/Out direction (イン/アウトの方向を反転する)]** を選択します。13ページの**入出方向の反転**についてを参照してください。
 - セカンダリカメラがない場合は、IPアドレスフィールドを空のままにします。
3. **[Full-day analysis (全日分析)]** を選択します。14ページの**全日分析**についてを参照してください。
4. **[混雑状況モード]** を選択します。15ページの**純粋な混雑状況モード**に変更する方法を参照してください。

セカンダリカメラの設定方法

1. 入口や出口をカバーするすべてのカメラに、AXIS Occupancy Estimatorをインストールします。
2. **[Settings > AXIS Occupancy Estimator]** (設定 > AXIS Occupancy Estimator) に移動します。
3. **[Secondary (セカンダリ)]** を選択します。
4. **[Settings > Advanced > Neighbour counters (設定 > 高度な設定 > 近くのカウンター)]** に移動します。
5. **[Display camera credentials (カメラの認証情報を表示)]** を選択します。
6. IPアドレス、ユーザー名、パスワードをコピーします。
7. プライマリカメラで、**[Settings > AXIS Occupancy Estimator (設定 > AXIS Occupancy Estimator)]** に移動し、セカンダリのリストに認証情報を追加します。13ページの**プライマリカメラの設定方法**を参照してください。

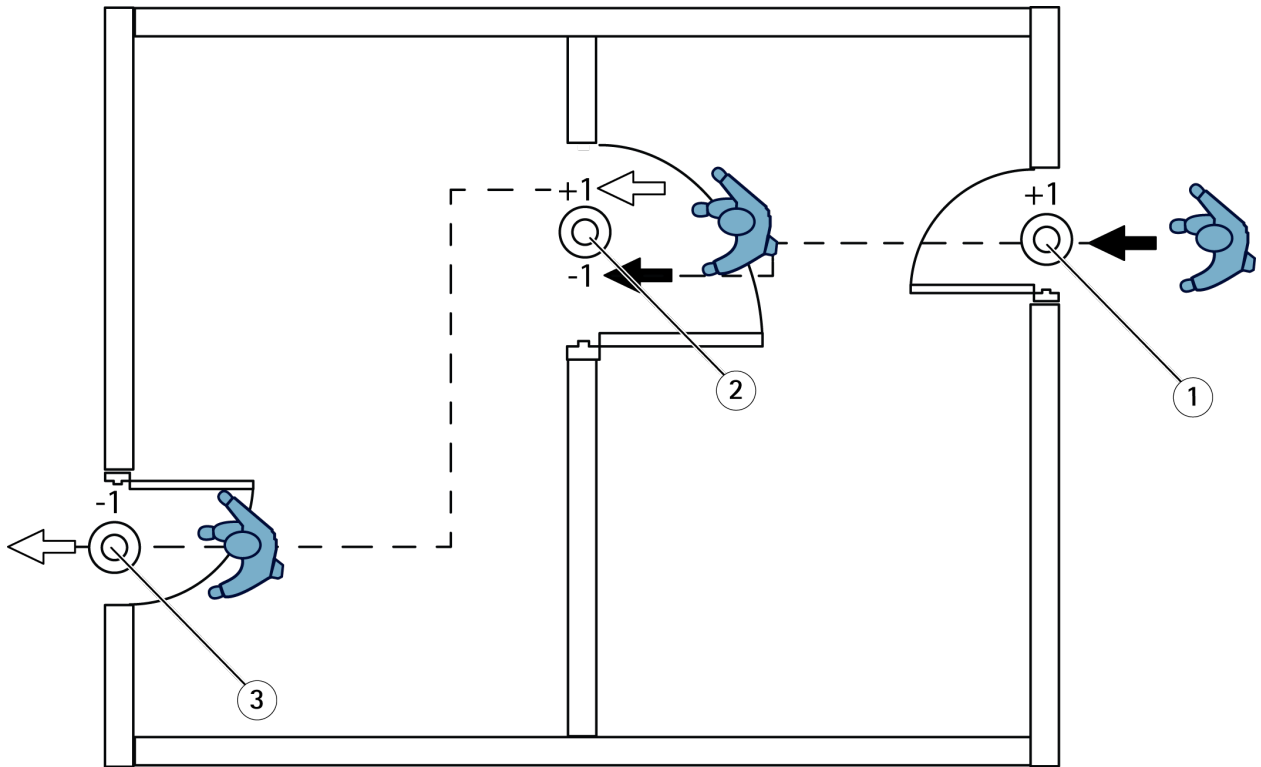
入出方向の反転について

同じセカンダリカメラで接続されている隣接する2部屋の混雑状況レベルを計算するには、いずれかのプライマリカメラで **[Reverse In/Out direction (入出方向の反転)]** を選択する必要があります。この設定は、セカンダリカメ

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

ラの [Direction in (方向)] の設定をオーバーライドしますが、この混雑状況エリアに対してのみです。これによって、最初の室から歩いて出る人は2つ目の部屋に歩いて入ると見なされるようになります。逆も同じです。



- 1 プライマリカメラ、部屋1
- 2 セカンダリカメラ
- 3 プライマリカメラ、部屋2

全日分析について

全日分析はデフォルトで選択されます。

全日分析では、日中に計算された混雑状況が閉店後に少し変更されます。これは、完全な1日分のデータが集められると、その日のより詳細な情報が利用可能になり、アプリケーションがその日の混雑状況をより正確に推定できるからです。混雑状況アプリケーションは、訪問者の流れを見ながら混雑状況エリアの開閉状態を自動的に検知します。

そのため全日分析では、プライマリカメラは統計データを1日に1回だけAXIS Store Data Managerに送信します。

スマートおよび純粋な混雑状況の各モードについて

AXIS Occupancy Estimatorは、2つのモードで実行できます。このアプリケーションはスマートな混雑状況向けに開発されていますが、往来や平均滞在時間が安定しない場所では、純粋な混雑状況もまだ付加価値を提供します。

スマートな混雑状況モード

スマートな混雑状況では、アプリケーションが通行の頻度を分析して平均滞在時間を計算し、そのデータを使用して1日を通して累積された人数計測エラーが除去されます。出力は、特定の時刻での推定される混雑状況と平均滞在時間、および1日の終わりに補正された全日分析です。

純粋な混雑状況モード

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

純粋な混雑状況モードを選択すると、アプリケーションは「入ってくる人」から「出てくる人」を引いた人数を計測することで混雑状況を推定します。この推定はスマートな混雑状況モードほど高度ではなく、時間の経過と共に混雑状況エラーが蓄積されます。人の流れが多い場合や、カウンターが適切に設定されていない場合にエラーは大きくなります。

この表に、往來の状況と平均滞在時間に基づいて、さまざまなシナリオで推奨される混雑状況モードを示します。

場所	スマートな混雑状況モード	純粋な混雑状況モード	コメント
大規模な食料品店(スーパーマーケット)	X		人の流れ(高)、平均滞在時間(同様)。
図書館		X	人の流れ(低)、平均滞在時間(変化)。
薬局	X		人の流れ(中)、平均滞在時間(変化)。
映画館		X	平均滞在時間(変化)、滞在時間(長)、ほとんどの場合は90分以上。
ファーストフードレストラン	X		人の流れ(高)、平均滞在時間(同様)。
新聞販売店/キオスク	X		人の流れ(高)、平均滞在時間(同様)。
コーヒーショップ		X	人の流れ(低)、平均滞在時間(変化)。
体育館	X		人の流れ(中)、平均滞在時間(長)、ほとんどの場合は90分未満。
ショッピングモール		X	人の流れ(高)、平均滞在時間(変化)、ほとんどの場合は90分以上。モール内の個々の店舗では、平均滞在時間は非常に短くなることが多く、スマートな混雑状況モードでアプリケーションを適用できます。
デスティネーションストア(専門小売店)	X		人の流れ(高)、平均滞在時間(同様)。

純粋な混雑状況モードを選択する場合は、カウンターのリセットをスケジュールすることをお勧めします。15ページの[純粋な混雑状況モードに変更する方法](#)を参照してください。

純粋な混雑状況モードに変更する方法

1. [Settings > AXIS Occupancy Estimator] (設定 > AXIS Occupancy Estimator) に移動します。
2. [Occupancy mode] (混雑状況モード) を [Naïve] (純粋) に設定します。
3. [Reset occupancy] (混雑状況のリセット) スライダーを動かして、カウンターをリセットする時期を選択します。

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

カウンターを自動的にリセットしない場合は、[Never reset occupancy] (混雑状況をリセットしない) と表示されるまでスライダーを右側に動かします。ライブビューでいつでもカウンターをリセットできます。

利用レベルが制限を超えた場合に電子メールを送信する

この例では、施設内の人数が制限を超えたときに電子メールを送信するためのルール設定方法を説明します。この例では、最大値は200です。

最大収容人数の設定

1. アプリケーションで、[Settings > AXIS Occupancy Estimator (設定 > AXIS 収容人数エスティメーター)]を開きます。
2. [Enable stateful events (ステートフルイベントを有効にする)] を選択します。
3. 200を[Higher threshold (閾値最大)]に入力します。
4. [Submit (送信)] をクリックします。

ルールの作成

1. デバイスのWebページで、[Settings > System > Events > Rules (設定 > システム > イベント > ルール)]に移動し、ルールを追加します。
2. ルールの名前を入力します。
3. 条件のリストで、[Applications (アプリケーション)] の下の [Occupancy-High (収容人数-最大)] を選択します。
4. アクションのリストで、[Notifications (通知)] の下の [Send notification to email (電子メールに通知を送信する)] を選択し、リストから送信先を選択します。
新しい送信先を作成するには、[Recipients (送信先)] に移動します。
5. メールの件名とメッセージを入力します。
6. [Save (保存)] をクリックします。

スケジュールを設定する

暗くなると、人数計測機能が自動的に無効にされます。人数計測をさらに制限する場合は、スケジュールを設定することができます。

1. [Settings > Schedule (設定 > スケジュール)] に移動します。
2. スライダーを動かして、開始時間と終了時間を選択します。[Per day schedule (1日のスケジュール)] を選択して、週の曜日ごとに個別のスケジュールを設定し、対応するスライダーに移動することができます。

特定の曜日にアプリケーションを無効にする

スライダーの横にあるチェックボックスをオフにします。

人物の匿名化

このアプリケーションは、カメラから人物を識別できなくなるように設定できます。2つのレベルの匿名化があります(ソフトとハード)。

匿名化(ソフト)

この機能は、カメラからのすべてのビデオストリームと画像をブロックします。ライブビューにはぼやけた画像が表示され続けるため、何が起きているかはわかりますが、人物を識別することはできません。

AXIS Occupancy Estimator

追加設定

1. [Maintenance > Anonymize (メンテナンス > 匿名化)] に移動します。
2. [Anonymize soft (匿名化 (ソフト))] をクリックします。
3. 通常モードに戻すには、[Reset anonymization (匿名化のリセット)] をクリックします。これを行えるのは、管理者アカウントを持つユーザーだけです。

匿名化 (ハード)

重要

[Anonymize hard] (匿名化 (ハード)) では、すべての管理者ユーザーが削除され、rootパスワードがロックされます。これに戻すには、カメラを工場出荷時の設定にリセットするしかありません。

1. [Maintenance > Anonymize (メンテナンス > 匿名化)] に移動します。
2. [Anonymize hard (匿名化 (ハード))] をクリックします。

アプリケーションの設定を別のカメラにコピーする

同じ店舗内の同じ設置高さの他のカメラなどに、アプリケーションの設定をコピーする場合は、コピー機能を使用します。アプリケーションのライセンスやカメラの名前など、カメラ固有の設定は含まれません。

1. アプリケーションの設定をコピーするには、[Maintenance > Parameter backups] (メンテナンス > パラメーターのバックアップ) に移動します。
2. [Copy] (コピー) をクリックします。ファイルは、ブラウザのダウンロードのデフォルトフォルダーに保存されます。

AXIS Occupancy Estimator

システムを検証する

システムを検証する

注意

システムを検証する前に、推奨事項に従ってカメラを取り付けたことを確認してください。4ページの、[カメラを取り付ける](#)を参照してください。

建物内のすべてのカメラを設置および設定したら、精度を検証し、システムを微調整することをお勧めします。これによって、精度が高くなったり、カウンターの問題が明らかになったりする可能性があります。

概要を確認するには、[**Statistics (統計情報)**]に移動し、2~3日さかのぼって計測データを調べます。入る人と出る人の人数の差が5%未満の場合は、システムが正しく設定されていると考えられます。

差がそれより大きい場合は、[18ページのカウンターを検証する](#)を参照してください。

カウンターを検証する

1. [Live view (ライブビュー)] に移動します。
2. [Test accuracy (精度のテスト)] ボタンをクリックします。
3. [Hide] (非表示) をクリックして、自動カウンターを非表示にします。
4. [Start] (開始) をクリックし、キーボードの上向き矢印と下向き矢印を押して、手動で100以上カウントします。[In] (入) および [Out] (出) ボタンを使用することもできます。
5. やり直す場合は [Reset] (リセット) をクリックし、終了したら [Result] (結果) をクリックします。
6. 精度表をチェックします。通常の場合では、全体の精度のパーセンテージは95%未満である必要があります。
7. カウンターの精度に満足できない場合は、[18ページのカウンターを微調整する](#)を参照してください。

カウンターを微調整する

1. [4ページの、カメラを取り付ける](#)を参照して、物理的な取り付けによってカウンターの正常な動作が妨げられていないことを確認します。
2. [Settings > General] (設定 > 一般) に移動します。
3. [Counter sensitivity] (カウンターの感度) スライダーに移動するか、[Setup] (設定) をクリックし(カウンターが手動モードで実行されている場合)、次のいずれかの操作を行います。
 - カウンターの計測値が実態と比べてが多すぎる場合は、カウンターの感度を約20単位下げ、黄色のボックスのサイズを少し大きくします。
 - カウンターの計測値が実態と比べてが少なすぎる場合は、カウンターの感度を約20単位上げる、黄色のボックスのサイズを少し小さくします。
4. [18ページのカウンターを検証する](#)を参照して、精度を再検証します。

AXIS Occupancy Estimator

統合

統合

収容制限を超えた場合に通知を送信する

この例では、施設内の人数が最大制限を超えた場合AXIS Camera Stationでモバイル通知を送信するルールを設定する方法を説明します。この例では、最大値は50です。

開始する前に

以下の準備が必要です。

- AXIS Camera Station 5.36以降がインストールされているコンピューター
- AXIS Camera Stationモバイルアプリ

最大収容人数の設定

1. アプリケーションで、[Settings > AXIS Occupancy Estimator (設定 >AXIS 収容人数エスティメーター)]を開きます。
2. [Enable stateful events (ステートフルイベントを有効にする)]を選択します。
3. 50を[Higher threshold (閾値最大)]に入力します。
4. [Submit (送信)]をクリックします。

デバイスイベントトリガーを作成する

1. AXIS Camera Stationで $+$ をクリックしてから [Configuration > Recording and events > Action rules (設定 > 録画とイベント > アクションルール)]に移動して、[New (新規)]をクリックします。
2. [Add (追加)]をクリックしてトリガーを追加します。
3. トリガーのリストから [Device event (デバイスイベント)]を選択し、[OK]をクリックします。
4. [Configure device event trigger (デバイスイベントトリガーを設定)] セクションで次のように実行します。
 - [Device (デバイス)] でデバイスを選択します。
 - [Event (イベント)]で、[Occupancy-High (収容人数-最大)]を選択します。
 - [Trigger period (トリガー時間)] で連続する2つのトリガーの間隔を設定します。この機能は、連続する録画の回数を減らすために使用します。この間隔中に別のトリガーが発生しても、イベントは継続され、トリガー時間はその時点から再度カウントされます。
5. [Filters (フィルター)] で [active (アクティブ)] を [Yes (はい)] に設定します。
6. [Ok] をクリックします。

モバイルアプリに通知を送信するアクションを作成する

1. [Next (次へ)] をクリックします。
2. [Add (追加)] をクリックしてアクションを追加します。
3. アクションのリストから [Send mobile app notification (モバイルアプリに通知を送る)] を選択し、[OK] をクリックします。

注意

アラームメッセージは、アラームがトリガーされたときに受信者が確認します。

4. [Message (メッセージ)] に、収容制限を超えたときに送信するメッセージを入力します。

AXIS Occupancy Estimator

統合

5. **[Default (デフォルト)]**を選択。これにより、受信機が通知をクリックすると、AXIS Camera Station Mobile アプリのメインページが開きます。
6. **[Ok]** をクリックします。

アラームがいつアクティブになるかを指定する

1. **[Next (次へ)]** をクリックします。
2. 特定の時間アラームだけがアクティブになるように設定する場合は、**[Custom schedule (カスタムスケジュール)]** を選択します。
3. リストからスケジュールを選択します。
4. **[Next (次へ)]** をクリックします。
5. ルールの名前を入力します。
6. **[Finish (完了)]** をクリックします。

AXIS Occupancy Estimator

統計情報

統計情報

カウンターからの統計情報には、以下のようにいくつかの使用方法があります。

- アプリケーションのWebページで、組み込みのグラフにリアルタイムの計測データを表示します。
- 統計情報ページから、日および週のビューで組み込みのグラフを表示します。データはリアルタイムで更新されます。
データは最大90日間、カメラで使用でき、15分ごとに更新されます。データは、15分間の出入りのカウントを表す15分ビンに保存されます。
- オープンAPIを使用して、データをダウンロードします。VAPIX@ライブラリを参照してください。
- AXIS Store Data Managerを使用します。これは、すべてのデバイスから収集されたデータを一元的に保存および管理するための中心点として機能するソフトウェアパッケージです。21ページのAXIS Store Data Managerでカメラをフォルダーに接続するを参照してください。
- AXIS Store Reporterを使用します。これは、履歴データを管理および監視するための統計情報のWebベースのソリューションです。
- 統計情報をコンピューターにダウンロードします (21ページの統計情報のダウンロードを参照)。

AXIS Store Data Managerでカメラをフォルダーに接続する

この操作を行うには、カメラにアプリケーションがインストールされている必要があります。

1. AXIS Store Data Managerで、[Sources (ソース)] に移動し、接続先のフォルダーの [Folder connection identifier (フォルダー接続ID)] と [Folder connection password (フォルダー接続パスワード)] を取得します。
2. カメラのWebページで、[Settings > Apps (設定 > アプリ)] に移動し、アプリケーションのWebページを開きます。
3. アプリケーションのWebページで、[Settings > Reporting (設定 > レポート)] に移動します。
4. サーバーへのデータのプッシュを有効にするには、[Enabled (有効)] を選択します。
5. AXIS Store Data ManagerのWebアドレスを入力します (https://[systemintegrator1].asdm.axis.com/datamanagerなど、systemintegrator1は一意の名前に置き換えます)。
6. [Folder connection identifier (フォルダー接続ID)] と [Folder connection password (フォルダー接続パスワード)] を入力します。
7. 接続をテストするには、[Run test (テストの実行)] をクリックします。
8. [Submit (送信)] をクリックします。

統計情報のダウンロード

1. [Statistics > Download statistics (統計情報 > 統計情報のダウンロード)] に移動します。
2. ファイル形式を選択します。
 - .xml、.csv、または.json形式を選択した場合は、時間間隔も選択できます。
 - ファイル形式.cntは独自のバイナリ形式で、互換性の理由により使用可能です。
3. カレンダーで日付を選択します。データはブラウザの新しいタブに表示されます。

AXIS Occupancy Estimator

統計情報

4. データをコンピューターのローカルファイルとして保存する場合は、右クリックして **[Save as (名前を付けて保存)]** を選択します。ファイルはデフォルトのダウンロードフォルダーに保存されます。

使用可能なデータをすべてダウンロードする場合は、ファイル形式の横にある **[Download all (すべてダウンロード)]** をクリックします。

AXIS Occupancy Estimator

トラブルシューティング

トラブルシューティング

問題	アクション
ソフトウェアがAXIS Store Data Managerにアップロードされない。	最もよくある原因は、ネットワーク通信の問題です。 [Settings > Reporting (設定 > レポート)] で接続テストを行って、問題の原因に関する情報を取得します。
カウントされない。	カメラの取り付け方法の手順に従ったことを確認してください(4ページの、カメラを取り付ける参照)。
正しくカウントされない。	人物が人数計測ゾーン全体を通過し、両方の青い線を越えていることを確認してください。2本の線を通す前に左または右に旋回してはいけません。
ライブビューにビデオストリームがない。	他に誰もビデオを視聴していないこと、VMSまたはその他の進行中の録画へのビデオストリームがあることを確認してください。カメラで、同時に許可される閲覧者またはビデオストリームの数が制限されているかどうかをチェックしてください。
フレームレートが低すぎることを示す警告が表示される。	1. シーンに十分な照明があることを確認してください。シーンが暗すぎる場合、カメラはアプリケーションが機能するのに十分なフレーム/秒を提供できません。 2. カメラのプロセッサに高負荷がかかっている場合、アプリケーションが影響を受けることがあります。カメラからビデオをストリーミングするときは、一度に1つのストリームだけを開いていることを確認してください。
パラメーターを変更した後、カウントされない。	パラメーターを変更した後、カウント精度が最適になるまで、ソフトウェアを最大10分間実行する必要があります。
それでもカウントされない。	上記の助言に従っても、ソフトウェアを機能させることができない場合は、Axisの販売店にお問い合わせください。

アプリケーションの再起動

計測が不正確な場合、またはWebインターフェースが異常に遅い場合は、実行中のサービスを再起動してみるか、またはデバイスを再起動することができます。

デバイスを再起動するには、[Maintenance > Restart (メンテナンス > 再起動)] に移動します。

アプリケーションをリセットする

[Maintenance > Reset (メンテナンス > リセット)] に移動し、次のいずれかの操作を行います。

- カメラからすべての計測データをクリアするには、[Clear data (データのクリア)] をクリックします。
- アプリケーションの設定をデフォルトにリストアするには、[Restore settings (設定のリストア)] をクリックします。

AXIS Occupancy Estimator

トラブルシューティング

設定をバックアップする

1. アプリケーションの設定をバックアップするには、[Maintenance > Parameter backups (メンテナンス > パラメーターのバックアップ)]に移動します。
2. [Backup (バックアップ)]をクリックします。ファイルは、ブラウザのダウンロードのデフォルトフォルダーに保存されます。

設定をリストアする

1. [Maintenance > Parameter backups (メンテナンス > パラメーターのバックアップ)]に移動します。
2. 以前に保存したバックアップファイルを選択し、[Restore (リストア)]をクリックします。

ログレポートの生成

デバイスに何らかの問題がある場合は、ログレポートを生成することができます。

1. [Maintenance > Logs (メンテナンス > ログ)]に移動します。
2. [Generate logs (ログの生成)]をクリックします。
3. ファイルは、コンピューターのデフォルトのダウンロードフォルダーに保存されます。
4. サポートが必要な問題を送信するときに、ログレポートを添付します。

ライセンスを管理する

[Maintenance > Registration (メンテナンス > 登録)]に移動します。

- ライセンスを登録するには、[Registration page (登録ページ)]をクリックします。
- 本製品からライセンスを削除する場合は、[Clear registration (登録のクリア)]をクリックします。
- 更新されたライセンスがある場合は、[Renew license (ライセンスの更新)]をクリックします。

AXIS Occupancy Estimator

軽量版のWebインターフェース

軽量版のWebインターフェース

Webインターフェースの軽量バージョンが、URL `http://<servername>/people-counter/lite/index.html`にあります。たとえば、これらのページを使用して、AXIS Camera StationやMilestoneのXProtect Smart Clientなどのシステムに、アプリケーションを埋め込むことができます。

以下の4つのページを利用できます。

- `http://<servername>/people-counter/lite/day.html`: このページには、**[Statistics] (統計情報)** ページに表示されるものと同じ1日のプロットが表示されます。
- `http://<servername>/people-counter/lite/week.html`: このページには、**[Statistics] (統計情報)** ページに表示されるものと同じ週のプロットが表示されます。
- `http://<servername>/people-counter/lite/count.html`: 当日の生のカウント数が表示されるページです。
- `http://<servername>/people-counter/lite/liveview.html`: 人数計測エリアと重ねて生のカウント数とビデオストリームが表示される、ライブビューページのスリムバージョンです。

`http://<servername>/people-counter/lite/liveview.html?clean`のように、上記のURLに "?clean" を追加することで、ページの一番下のメニューを無効にすることができます。また、`http://<servername>/people-counter/cn/lite/liveview.html`のように "lite" の前に言語タグを追加して、これらのページを他の言語で表示することもできます。

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

人数計測アプリAPI

Occupancy Estimator API

Occupancy Estimator APIは、ある場所を出入りする人の総数、混雑状況、および平均滞在時間を取得します。

リクエスト

24時間表記で、すべての使用可能な日の履歴データを要求します。

```
http://<servername>//occupancy-estimator/.apioperator?occupancy-export=json&date=all  
&res=24h
```

レスポンス

```
{  
  "counter": {  
    "name": "Axis-ACCC8E019C5F",  
    "serial": "ACCC8E019C5F",  
    "delta": 86400,  
    "types": {  
      "Occupancy": 64,  
      "Average Time": 64,  
      "Total In": 66,  
      "Total Out": 67  
    }  
  },  
  "data": {  
    "20170908000000" : [0,0,17,17],  
    "20170909000000" : [0,0,18,17],  
    "20170910000000" : [0,0,1,0],  
    "20170911000000" : [0,0,0,0],  
    "20170912000000" : [0,0,21,15],  
  }  
}
```

パラメーター	説明
name	クライアントが選択したアプリケーションの名前。
serial	カメラのMACアドレス。
delta	dataエントリ間の時間差 (秒)。
Occupancy	現在、その場所にいる人の数。
Average time	人がその場所に滞在する平均時間。
Total In	ある場所に入る人の総数。
Total Out	ある場所から出る人の総数。

API仕様

[Real-time data] (リアルタイムデータ)

リアルタイムの混雑状況データが含まれるJSONファイルを要求します。

```
http://IPAddress/local/occupancy-estimator/.api?live-occupancy.json
```

[Reset occupancy] (混雑状況のリセット)

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

使用可能な混雑状況データのリセットを要求します。

`http://IPAddress/local/occupancy-estimator/.api?occupancy-reset&occ=[value]`

[Export occupancy] (混雑状況のエクスポート)

CSV、JSON、またはXML形式を使用して、日付と時間帯を指定して混雑状況データをエクスポートします。

CSV

`http://IPAddress/local/occupancy-estimator/.api?occupancy-export-csv&date=[date]&res=[res]`

JSON

`http://IPAddress/local/occupancy-estimator/.api?occupancy-export-json&date=[date]&res=[res]`

XML

`http://IPAddress/local/occupancy-estimator/.api?occupancy-export-xml&date=[date]&res=[res]`

パラメーター	説明
[date]	YYYYMMDD形式の日付 (例: date=20180520)
[res]	1m: 1分ビンのデータ。
	15m: 15分ビンのデータ。
	1h: 1時間ビンのデータ
	24h: 24時間ビンのデータ。

人数計測アプリAPI

次のアプリケーションには、人数計測機能が含まれます。

AXIS People Counter - 店舗やショッピングモールなど、人数をカウントする必要がある小売環境向けのアプリケーションです。

AXIS Occupancy Estimator - 現在、閉じたエリアを占めている人の数を追跡します。また、平均的な人がエリア内で費やす時間を推定することもできます。

AXIS Direction Detector - 人がカメラの下をどの方向に通過するかを監視します。人がいずれかの方向に移動している場合に、このアプリケーションはアラームをトリガーできます。

AXIS Tailgating Detector - あらかじめ設定した時間間隔中に、カメラの下を2人以上の人が通過したかどうかを検知します。2人以上の人を検知した場合は、アラームをトリガーできます。

AXIS Random Selector - 誰かが施設から出て行くことを検知し、その人物の検査をスケジュールするかをどうかをランダムに決定します。

一般的な例

注意

下の表に従って、さまざまな例で <appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

値	アプリケーション
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

例

People Counterからのリアルタイムデータを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?live-sum.json`

戻り値

```
{
  "serial": "00408CAC512B",
  "name": "Exit south",
  "timestamp": "20170503112756",
  "in": 12,
  "out": 318
}
```

詳細については、29ページのリアルタイムデータのリクエストを参照してください。

例

People Counterに使用可能なデータがあるすべての日を一覧表示します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?list-cnt.json`

戻り値

```
{
  "timestamp": "20170513132513",
  "days": ["20170510", "20170511", "20170513"]}
}
```

詳細については、30ページの使用可能なデータを一覧表示するを参照してください。

例

2017年5月12日～15日の履歴データを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export-cnt&date=20170512-20170515`

詳細については、30ページのバイナリデータをダウンロードするを参照してください。

例

すべての使用可能な履歴データを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export-cnt&date=all`

詳細については、30ページのバイナリデータをダウンロードするを参照してください。

例

15分の解像度で、2017年5月12日および15日の履歴CSVデータを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export-csv&date=20170512,20170515&res=15m`

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

詳細については、31ページのCSVデータを要求するを参照してください。

例

24時間の解像度で、すべての使用可能な日の履歴データを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export-csv&date=all&res=24h`

詳細については、31ページのCSVデータを要求するを参照してください。

例

15分の解像度で、2017年5月12日および15日の履歴XMLデータを要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export-xml&date=20170512,20170515&res=15m`

詳細については、32ページのXMLデータを要求するを参照してください。

例

People Counterからのライブビュー情報を要求します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?cntpos.json`

レスポンス

```
{
  "width":320,
  "height":240,
  "left":0,
  "right":296,
  "top":88,
  "bottom":224,
  "yfirst":88,
  "ylast":152,
  "radius":0
}
```

詳細については、34ページのライブビュー情報を参照してください。

API仕様

リアルタイムデータのリクエスト

リアルタイムの計測データが含まれるJSONファイルを返します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?live-sum.json`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

戻り値

```
{
  "serial": "<camera-serial>",
  "name": "<counter-name>",
  "timestamp": "<timestamp>",
  "in": <in>,
  "out": <out>
}
```

戻り値の説明

値	説明
<camera-serial>	カメラのシリアル番号
<counter-name>	カウンターの名前
<timestamp>	YYYYMMDDhhmmss形式でのカメラ内の時刻
<in>	今日これまでに入ってきた人の数
<out>	今日これまでに出て行った人の数

使用可能なデータを一覧表示する

データが存在する日の一覧を返します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?list-cnt.json`

下の表に従って、<appname>の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

```
{
  "timestamp" : "<timestamp>",
  "days": ["YYYYMMDD", [...] "YYYYMMDD"]}
}
```

戻り値の説明

値	説明
<timestamp>	YYYYMMDDhhmmss形式でのカメラ内の時刻
<days>	存在する日の配列

バイナリデータをダウンロードする

このスクリプトは、AXIS Store Data Managerで使用する、特定の日付のバイナリデータファイルを返します。

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/.api?export-cnt&date=<date>`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

リクエストパラメーターの説明

パラメーター	説明
<date>	YYYYMMDD形式の日付
	YYYYMMDD-YYYYMMDD形式の日付の区間
	YYYYMMDD, [..], YYYYMMDD形式のカンマ区切りの日付
	all: 使用可能なすべてのデータ

戻り値

特定の日付のバイナリデータファイル。

CSVデータを要求する

CSV形式で履歴データを返します

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/.api?export-csv[&date=<date>][&res=<res>]`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

リクエストパラメーターの説明

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

パラメーター	説明
<date>	YYYYMMDD形式の日付
	YYYYMMDD-YYYYMMDD形式の日付の区間
	YYYYMMDD, [. .], YYYYMMDD形式のカンマ区切りの日付
	all: すべての使用可能なデータ (デフォルト)
<res>	15m: 15分ビンのデータ (デフォルト)
	1h: 1時間ビンのデータ
	24h: 1日ビンのデータ

戻り値

このスクリプトは、プレーンテキストのカンマ区切りの値でデータを返します。最初の行には各要素の説明が含まれており、以降の行には、選択した時間間隔と解像度に対応するデータが含まれています。

XMLデータを要求する

XML形式で履歴データを返します

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/.api?export-xml [&date=<date>] [&res=<res>]`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

リクエストパラメーターの説明

パラメーター	説明
<date>	YYYYMMDD形式の日付
	YYYYMMDD-YYYYMMDD形式の日付の区間
	YYYYMMDD, [. .], YYYYMMDD形式のカンマ区切りの日付
	all: すべての使用可能なデータ (デフォルト)
<res>	15m: 15分ビンのデータ (デフォルト)
	1h: 1時間ビンのデータ
	24h: 1日ビンのデータ

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

戻り値

このスクリプトはXML形式でデータを返します。DTDファイルは `http://<servername>/local/<appname>/appdata.dtd` にあります。

JSONデータを要求する

JSON形式で履歴データを返します

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/api?export=json[&date=<date>][&res=<res>]`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

リクエストパラメーターの説明

パラメーター	説明
<date>	YYYYMMDD形式の日付
	YYYYMMDD-YYYYMMDD形式の日付の区間
	YYYYMMDD, [...], YYYYMMDD形式のカンマ区切りの日付
	all: すべての使用可能なデータ (デフォルト)
<res>	15m: 15分ビンのデータ (デフォルト)
	1h: 1時間ビンのデータ
	24h: 1日ビンのデータ

戻り値

このスクリプトはJSON形式でデータを返します。

計測データをクリアする

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/apioperator?clear-data`

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

値	アプリケーション
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

OK

ライブビュー情報

ライブビューの線の配置に関する情報を返します。

リクエスト

`http://<servername>/local/<appname>/.api?cntpos.json`

下の表に従って、<appname>の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

レスポンス

```
{  
  "width":<width>,  
  "height":<height>,  
  "left":<left>,  
  "right":<right>,  
  "top":<top>,  
  "bottom":<bottom>,  
  "yfirst":<yfirst>,  
  "ylast":<ylast>,  
  "radius":<radius>  
}
```

戻り値の説明

値	説明
<width>	ビデオストリームの大きさ
<height>	
<left>	ライブビューの青線の開始と終了のx座標(ピクセル単位)
<right>	
<top>	ライブビューの2本の青線のy座標(ピクセル単位)
<bottom>	

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

値	説明
<yfirst>	曲率を無視した、赤の人数計測エリアの上端と下端のy座標 (ピクセル単位)
<ylast>	
<radius>	両方の軸でエリアの中心で測定される場合、またはエリアが湾曲していない場合に、赤の人数計測エリアを記述する半径 (ピクセル単位)

システムログを表示する

リクエスト

<http://<servername>/local/<appname>/apioperator?show-logs>

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

システムログを表示します。

ログアーカイブを生成する

リクエスト

<http://<servername>/local/<appname>/apioperator?generate-logs>

下の表に従って、<appname> の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

ログアーカイブ

人数計測のパラメーターを一覧表示する

リクエスト

<http://<servername>/local/<appname>/api?params.json>

AXIS Occupancy Estimator

人数計測アプリAPI

下の表に従って、<appname>の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

People Counterに関連するすべてのパラメーターのJSONオブジェクト。

人数計測のパラメーターを設定する

POSTの形式にはペアと値を指定する必要がある形式があり、例で適切に説明されます。
&p1=Counter.Enable&v1=1&p2=Counter.Height&v2=280&setparams=needstobeincluded

注意

バージョン5.60以降のファームウェアの場合は、代わりに以下を使用します。setparams
&Counter.Height=280

リクエスト

http://<servername>/local/<appname>/.apioperator?setparams

下の表に従って、<appname>の値でアプリケーションを指定します。

値	アプリケーション
people-counter	AXIS People Counter
occupancy-estimator	AXIS Occupancy Estimator
direction-detector	AXIS Direction Detector
tailgating-detector	AXIS Tailgating Detector
random-selector	AXIS Random Selector

戻り値

OK

